

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成20年5月8日(2008.5.8)

【公開番号】特開2008-65793(P2008-65793A)

【公開日】平成20年3月21日(2008.3.21)

【年通号数】公開・登録公報2008-011

【出願番号】特願2006-246175(P2006-246175)

【国際特許分類】

G 0 6 T 3/00 (2006.01)

H 0 4 N 5/225 (2006.01)

H 0 4 N 5/91 (2006.01)

G 0 6 T 1/00 (2006.01)

H 0 4 N 1/387 (2006.01)

G 0 6 T 11/60 (2006.01)

【 F I 】

G 0 6 T 3/00 4 0 0 A

H 0 4 N 5/225 F

H 0 4 N 5/91 N

H 0 4 N 5/91 J

G 0 6 T 1/00 3 4 0 A

H 0 4 N 1/387

G 0 6 T 11/60 1 0 0 D

【手続補正書】

【提出日】平成20年3月25日(2008.3.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 の画像から顔と判断される領域を検出する検出処理手段と、
前記検出処理手段により検出された前記顔の大きさを判定する判定処理手段と、
前記第 1 の画像から所定の大きさ以上の顔を含む第 2 の画像を、所定のアスペクト比で
切り出す切り出し処理手段と
を備える画像処理装置。

【請求項 2】

前記切り出し処理手段は、最も大きい顔が含まれるように前記第 2 の画像を切り出す
請求項 1 に記載の画像処理装置。

【請求項 3】

前記切り出し処理手段は、前記第 1 の画像が最大に含まれるように前記第 2 の画像を切
り出す
請求項 1 に記載の画像処理装置。

【請求項 4】

前記第 2 の画像の配置を決定するテンプレートを管理する管理処理と、
前記第 2 の画像を前記テンプレートと合成する合成処理手段と
をさらに備える請求項 1 に記載の画像処理装置。

【請求項 5】

画像から顔と判断される領域を検出する検出処理手段と、
前記検出処理手段により前記顔と判断される領域が複数検出された場合、最も顔である確率が高い領域を含む画像を、前記画像から所定のアスペクト比で切り出す切り出し処理手段と

を備える画像処理装置。

【請求項 6】

画像から顔と判断される領域を検出する検出処理手段と、
前記検出処理手段により前記顔と判断される領域が複数検出された場合、顔を最も多く含む領域を、前記画像から所定のアスペクト比で切り出す切り出し処理手段と

を備える画像処理装置。

【請求項 7】

画像から顔と判断される領域を検出する検出処理手段と、
前記検出処理手段により検出された前記顔の中で特定の条件を満たす顔を含む領域を、前記画像から所定のアスペクト比で切り出す切り出し処理手段と

を備える画像処理装置。

【請求項 8】

画像から顔と判断される領域を検出する検出処理手段と、
検出された顔の大きさを判定する判定処理手段と、
検出された顔の中で最も大きい顔であると判定された顔を含む領域を、前記画像から切り出す切り出し処理手段と

を備える画像処理装置。

【請求項 9】

第 1 の画像から顔と判断される領域を検出する検出処理ステップと、
検出された顔の大きさを判定する判定処理ステップと、
前記第 1 の画像から所定の大きさ以上の顔を含む第 2 の画像を、所定のアスペクト比で切り出す切り出し処理ステップと

を含む画像処理方法。

【請求項 10】

前記切り出し処理ステップは、最も大きい顔と判定された領域を含む前記第 2 の画像を前記第 1 の画像から切り出す

請求項 9 に記載の画像処理方法。

【請求項 11】

前記切り出し処理ステップは、前記第 1 の画像を最大に含む前記第 2 の画像を切り出す
請求項 9 に記載の画像処理方法。

【請求項 12】

前記第 2 の画像の配置を決定するテンプレートに基づいて前記第 2 の画像を前記テンプレートと合成する合成処理ステップを

さらに備える請求項 9 に記載の画像処理方法。

【請求項 13】

画像から顔と判断される領域を検出する検出処理ステップと、
顔と判断される領域が複数検出された場合、最も顔である確率が高い領域を、前記画像から所定のアスペクト比で切り出す切り出し処理ステップと

を含む画像処理方法。

【請求項 14】

画像から顔と判断される領域を検出する検出処理ステップと、
顔と判断される領域が複数検出された場合、顔を最も多く含む領域を、前記画像から所定のアスペクト比で切り出す切り出し処理ステップと

を含む画像処理方法。

【請求項 15】

画像から顔と判断される領域を検出する検出処理ステップと、

検出された顔の内で特定の条件を満たす顔を含む領域を、前記画像から所定のアスペクト比で切り出す切り出し処理ステップと
を含む画像処理方法。

【請求項 16】

画像から顔と判断される領域を検出する検出処理ステップと、
検出された顔の大きさを判定する判定処理ステップと、
検出された顔の内で最も大きい顔を含む領域を、前記画像から切り出す切り出し処理ステップと
を含む画像処理方法。

【請求項 17】

画像から顔と判断される領域を検出する検出処理ステップと、
検出された顔の大きさを判定する判定処理ステップと、
検出された顔の内で所定の大きさ以上の顔を含む領域を、前記画像から所定のアスペクト比で切り出す切り出し処理ステップと
を含む処理を実行させるコンピュータが読み取り可能なプログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

本発明の一側面の第1の画像処理装置は、第1の画像から顔と判断される領域を検出する検出処理手段と、前記検出処理手段により検出された前記顔の大きさを判定する判定処理手段と、前記第1の画像から所定の大きさ以上の顔を含む第2の画像を、所定のアスペクト比で切り出す切り出し処理手段とを備える。

前記切り出し処理手段は、最も大きい顔が含まれるように前記第2の画像を切り出すようにすることができる。

前記切り出し処理手段は、前記第1の画像が最大に含まれるように前記第2の画像を切り出すようにすることができる。

前記第2の画像の配置を決定するテンプレートを管理する管理処理と、前記第2の画像を前記テンプレートと合成する合成処理手段とをさらに備えるようにすることができる。

本発明の一側面の第1の画像処理装置においては、画像から顔と判断される領域が検出され、所定の大きさ以上である顔を含む領域が、画像から、所定のアスペクト比で切り出される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

本発明の一側面の第2の画像処理装置は、画像から顔と判断される領域を検出する検出処理手段と、前記検出処理手段により前記顔と判断される領域が複数検出された場合、最も顔である確率が高い領域を含む画像を、前記画像から所定のアスペクト比で切り出す切り出し処理手段とを備える。

本発明の一側面の第2の画像処理装置においては、画像から顔と判断される領域が検出され、複数の顔が検出されたときには、最も顔である可能性が高い領域が、画像から、所定のアスペクト比で切り出される。

本発明の一側面の第3の画像処理装置は、画像から顔と判断される領域を検出する検出処理手段と、前記検出処理手段により前記顔と判断される領域が複数検出された場合、顔を最も多く含む領域を、前記画像から所定のアスペクト比で切り出す切り出し処理手段と

を備える。

本発明の一側面の第3の画像処理装置においては、画像から顔と判断される領域が検出され、複数の顔が検出されたときには、最も顔を多く含む領域が、画像から、所定のアスペクト比で切り出される。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

本発明の一側面の第4の画像処理装置は、画像から顔と判断される領域を検出する検出処理手段と、前記検出処理手段により検出された前記顔の中で特定の条件を満たす顔を含む領域を、前記画像から所定のアスペクト比で切り出す切り出し処理手段とを備える。

本発明の一側面の第4の画像処理装置においては、画像から顔と判断される領域が検出され、検出された顔のうち、特定の条件を満たす顔の領域が、画像から、所定のアスペクト比で切り出される。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

本発明の一側面の第5の画像処理装置は、画像から顔と判断される領域を検出する検出処理手段と、検出された顔の大きさを判定する判定処理手段と、検出された顔の中で最も大きい顔であると判定された顔を含む領域を、前記画像から切り出す切り出し処理手段とを備える。

本発明の一側面の第5の画像処理装置においては、画像から顔と判断される領域が検出され、検出された顔のうち、最も大きい顔であると判定された顔の領域が、画像から、所定のアスペクト比で切り出される。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

本発明の一側面の第1の画像処理方法は、第1の画像から顔と判断される領域を検出する検出処理ステップと、検出された顔の大きさを判定する判定処理ステップと、前記第1の画像から所定の大きさ以上の顔を含む第2の画像を、所定のアスペクト比で切り出す切り出し処理ステップとを含む。

前記切り出し処理ステップは、最も大きい顔と判定された領域を含む前記第2の画像を前記第1の画像から切り出すようにすることができる。

前記切り出し処理ステップは、前記第1の画像を最大に含む前記第2の画像を切り出すようにすることができる。

前記第2の画像の配置を決定するテンプレートに基づいて前記第2の画像を前記テンプレートと合成する合成処理ステップをさらに備えるようにすることができる。

本発明の一側面の第1の画像処理方法においては、画像から顔と判断される領域が検出され、所定の大きさ以上である顔を含む領域が、画像から、所定のアスペクト比で切り出される。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 5 】

本発明の一側面の第2の画像処理方法は、画像から顔と判断される領域を検出する検出処理ステップと、顔と判断される領域が複数検出された場合、最も顔である確率が高い領域を、前記画像から所定のアスペクト比で切り出す切り出し処理ステップとを含む。

本発明の一側面の第2の画像処理方法においては、画像から顔と判断される領域が検出され、複数の顔が検出されたときには、最も顔である可能性が高い領域が、画像から、所定のアスペクト比で切り出される。

本発明の一側面の第3の画像処理方法は、画像から顔と判断される領域を検出する検出処理ステップと、顔と判断される領域が複数検出された場合、顔を最も多く含む領域を、前記画像から所定のアスペクト比で切り出す切り出し処理ステップとを含む。

本発明の一側面の第3の画像処理方法においては、画像から顔と判断される領域が検出され、複数の顔が検出されたときには、最も顔を多く含む領域が、画像から、所定のアスペクト比で切り出される。

【手続補正8】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 6 】

本発明の一側面の第4の画像処理方法は、画像から顔と判断される領域を検出する検出処理ステップと、検出された顔の内で特定の条件を満たす顔を含む領域を、前記画像から所定のアスペクト比で切り出す切り出し処理ステップとを含む。

本発明の一側面の第4の画像処理方法においては、画像から顔と判断される領域が検出され、検出された顔のうち、特定の条件を満たす顔の領域が、画像から、所定のアスペクト比で切り出される。

【手続補正9】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 7 】

本発明の一側面の第5の画像処理方法は、画像から顔と判断される領域を検出する検出処理ステップと、検出された顔の大きさを判定する判定処理ステップと、検出された顔の内で最も大きい顔を含む領域を、前記画像から切り出す切り出し処理ステップとを含む。

本発明の一側面の第5の画像処理方法においては、画像から顔と判断される領域が検出され、検出された顔のうち、最も大きい顔であると判定された顔の領域が、画像から、所定のアスペクト比で切り出される。

【手続補正10】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 8 】

本発明の一側面のプログラムは、画像から顔と判断される領域を検出する検出処理ステップと、検出された顔の大きさを判定する判定処理ステップと、検出された顔の内で所定の大きさ以上の顔を含む領域を、前記画像から所定のアスペクト比で切り出す切り出し処理ステップとを含む処理を実行させるコンピュータが読み取り可能なプログラム。

本発明の一側面のプログラムにおいては、画像から顔と判断される領域が検出され、所定の大きさ以上である顔を含む領域が、画像から、所定のアスペクト比で切り出される処理をコンピュータに実行させる。

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

[画像処理装置の構成について]

図 1 は、本発明の一実施の形態である画像処理装置の構成を示す図である。画像処理装置 1 は、HDD (Hard Disc Recorder) レコーダなどである。

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 3 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 3 0】

タグ読み取り部 2 0 1 は、画像のクラスタリングを行うとき、静止画像 DB 3 1 に記録されている EXIF タグから、クラスタリングの対象とするそれぞれの画像の撮影時刻を読み出し、読み出した撮影時刻を演算部 7 1 に出力する。また、タグ読み取り部 2 0 1 は、後述するように、ユーザからの指示があった場合など、動画画像 DB 3 2 に記録されている動画画像の撮影時刻に関する情報を読み出し、読み出した撮影時刻を演算部 7 1 に出力する。

【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 1 5】

ステップ S 1 1 (図 3) において、タグ読み取り部 2 0 1 により、静止画像 DB 3 1 のクラスタリングの対象となっているフォルダ内の静止画像に関連付けられている EXIF タグが読み出される。必要に応じ、動画画像 DB 3 2 に記憶されている動画画像の撮影日時に関する情報も読み出される。

【手続補正 1 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 2 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 2 8】

[配置テンプレートの選択、設定に関わる処理について]

次に、クラスタリングの結果に基づき配置テンプレートが選択される際の処理について説明する。すなわち、図3のステップS14において実行される配置テンプレート設定処理の詳細について説明を加える。

【手続補正17】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0229

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0229】

配置テンプレートについては、図5乃至図9を参照して説明したように、1乃至5枚の画像が、1ページの中の所定の位置に、所定の大きさで配置される際のテンプレートである。

【手続補正18】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0230

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0230】

図34は、ステップS14において実行される配置テンプレート設定処理の詳細について説明するフローチャートである。ステップS61において、テンプレート設定部72（図2）は、クラスタリングされた静止画像の数に応じて、配置テンプレート群を設定する。

【手続補正19】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0235

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0235】

図35に示した例は、所定のフォルダに、3月1日から3月5日までに撮影された画像が管理されている場合であるため、1つのグループに含まれる画像は、比較的短い時間内に撮影された画像とされている。例えば、所定のフォルダに、1ヶ月毎に1枚の写真が撮影され、12枚含まれていたような場合であり、上記したクラスタリングの手法でクラスタリングが行われた場合、そのクラスタリングのときの条件にもよるが、4つのグループが作成され、1つのグループに3枚の画像が含まれるように分類される。すなわち、季節毎に画像が分類される。

【手続補正20】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0255

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0255】

図38に示したように、配置テンプレート234は、配置テンプレート231（図37）と同じように、撮影間隔が短いことを表現するために、5枚の画像が、それぞれ重なりあって配置されるようにするためのテンプレートである。また、配置テンプレート236は、配置テンプレート233（図37）と同じように、撮影間隔が長いことを表現するために、5枚の画像が、それぞれ重なりあうことなく、離れた位置に、かつ、直線状に並ぶことなく配置されるようにするためのテンプレートである。

【手続補正21】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0269

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0269】

連続して同じ配置テンプレートが選択されることにより、バラエティに富んだページ構成を行うことができなくなってしまう可能性がある。また、連続して同じ配置テンプレートが選択されることは、複数の配置テンプレートを用意する意味が無くってしまい、上記したような複数の配置テンプレートを用意することにより得られる効果を得られなくなってしまう。

【手続補正22】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0281

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0281】

グループ5は、5枚の画像を含むため、図38に示した配置テンプレート群が選択される。そしてグループ5内の画像同士の撮影間隔は、閾値C以上であり閾値D以下であると判断され、その結果として、配置テンプレート235が設定される。

【手続補正23】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0282

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0282】

グループ6は、5枚の画像を含むため、図38に示した配置テンプレート群が選択される。そしてグループ6内の画像同士の撮影間隔は、閾値C以下であると判断され、その結果として、配置テンプレート234が設定される。

【手続補正24】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0291

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0291】

さらに、図42を参照して表示領域と貼付領域について説明を加える。図42に示した配置テンプレート303には、表示領域として、ハート型をした表示領域331と楕円型をした表示領域332が設けられている。上記したように、例えば、ハート型の表示領域331であっても、貼付領域431は、四角形である。そして、表示領域331のハート型に合わせて、表示される静止画像が切り出されるわけではなく、貼付領域431の形に合わせて静止画像が切り出される。

【手続補正25】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0294

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0294】

さらに図43を参照して説明するに、表示領域341が、配置テンプレート304上で斜めに設けられているような領域である場合、その表示領域341を含み、四角形の領域が貼付領域441とされる。表示領域341は、配置テンプレート304に対して斜めに配置されているが、形は四角形である。このように、表示領域341の形が四角形であっても、斜めに配置されているような場合には、貼付領域441の画枠で画像が切り出され、表示領域341以外の部分がマスキング処理されることにより、ユーザ側にはあたかも

、斜めに画像が貼り付けられたかのようなページが提供される。

【手続補正 26】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0372

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0372】

図56において例えば、“アルバム1”というアルバムが撮影された日時は、“2005/3/15”から“2005/3/18”であることが表示されている。このように、各アルバム名の下側に表示される日時は、そのアルバムの最も古い写真が撮影された日時と、最も新しい写真が撮影された日時である。

【手続補正 27】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0376

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0376】

例えば、図56に示した画面の状態のとき、すなわち、カーソル703が“アルバム3”のアイコン上にあるときに、ユーザが決定を指示する操作を行うと、その選択されたアルバムを識別するための情報が生成され、記録再生制御部52に供給される。

【手続補正 28】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0390

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0390】

なお、図58に示したメニュー画面のうち、“アルバムの再生”という項目731が選択された場合、その時点で選択されているアルバム（図58に示した画面例においては、カーソル703が位置する“アルバム3”というアルバム名が付けられたアルバム）の再生が開始される。すなわち、上述した図55に示したフローチャートに基づく処理が開始される。

【手続補正 29】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0398

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0398】

図59において例えば、“動画像3”という動画像が撮影された日時は、“2005/5/16”から“2005/5/16”であることが表示されている。このように、各動画像名の下側に表示される日時は、その動画像の撮影が開始された日時と、撮影が終了された日時である。

【手続補正 30】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0407

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0407】

このように、動画像DB32に記録されている動画像は削除されることがある。勿論、静止画像DB31に記録されている静止画像も削除される可能性はあるが、動画像よりデータサイズが小さいため、例えば、容量不足のために削除しなくてはならないといったよ

うな状況が発生する可能性が低く、動画像より削除される確率は低いと考えられる。よって、ここでは、動画像が削除されることを前提として説明を続ける。

【手続補正 3 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 4 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 4 1 6】

動画像 D B 3 2 に記録されている動画像 1 6 1 ' が削除の対象とされた場合、動画像 1 6 1 ' に関連付けられている静止画像 1 6 1 が、静止画像 D B 3 1 に移動される。よって、静止画像 D B 3 1 には、静止画像 1 7 1、静止画像 1 7 2、および、静止画像 1 6 1 が記録されている状態とされる。

【手続補正 3 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 4 6 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 4 6 4】

【図 1】本発明の画像処理装置の一実施の形態の構成を示す図である。

【図 2】画像処理装置の記録再生部と制御部の構成の例を示すブロック図である。

【図 3】アルバムの作成に係る処理について説明するフローチャートである。

【図 4】背景テンプレートの例を示す図である。

【図 5】配置テンプレートの例を示す図である。

【図 6】配置テンプレートの例を示す図である。

【図 7】配置テンプレートの例を示す図である。

【図 8】配置テンプレートの例を示す図である。

【図 9】配置テンプレートの例を示す図である。

【図 10】アルバムの所定のページの構成の例を示す図である。

【図 11】アルバムの所定のページの構成の他の例を示す図である。

【図 12】アルバムの構成の例を示す図である。

【図 13】クラスタの例を示す図である。

【図 14】階層構造の例を示す図である。

【図 15】画像の閲覧順序について説明する図である。

【図 16】クラスタリングに関わる処理を実行する部分の構成例である。

【図 17】二分木構造の作成について説明する図である。

【図 18】二分木構造の作成について説明する図 17 に続く図である。

【図 19】二分木構造の作成について説明する図 18 に続く図である。

【図 20】二分木構造の作成について説明する図 19 に続く図である。

【図 21】二分木構造の作成について説明する図 20 に続く図である。

【図 22】二分木構造の作成について説明する図 21 に続く図である。

【図 23】二分木構造の作成について説明する図 22 に続く図である。

【図 24】二分木構造の作成について説明する図 23 に続く図である。

【図 25】二分木構造の作成について説明する図 24 に続く図である。

【図 26】グループ化条件に基づくクラスタリングについて説明する図である。

【図 27】クラスタの粒度の例を示す図である。

【図 28】グループ A 分割フラグの設定の例を示す図である。

【図 29】グループ化条件 A に基づくクラスタリング結果の例を示す図である。

【図 30】グループ B 分割フラグの設定の例を示す図である。

【図 31】グループ化条件 B に基づくクラスタリング結果の例を示す図である。

【図 32】クラスタの入れ子関係を示す図である。

- 【図 3 3】 クラスタリングの処理について説明するフローチャートである。
- 【図 3 4】 配置テンプレートの設定について説明するフローチャートである。
- 【図 3 5】 クラスタリングの処理結果について説明する図である。
- 【図 3 6】 配置テンプレートの設定について説明するフローチャートである。
- 【図 3 7】 撮影間隔と配置テンプレートの関係について説明する図である。
- 【図 3 8】 撮影間隔と配置テンプレートの関係について説明する図である。
- 【図 3 9】 配置テンプレートの設定について説明するフローチャートである。
- 【図 4 0】 撮影間隔と配置テンプレートの関係の具体例を示す図である。
- 【図 4 1】 アスペクト比と画像の貼り付け領域の関係について説明する図である。
- 【図 4 2】 アスペクト比と画像の貼り付け領域の関係について説明する図である。
- 【図 4 3】 アスペクト比と画像の貼り付け領域の関係について説明する図である。
- 【図 4 4】 静止画像のアスペクト比について説明する図である。
- 【図 4 5】 縦長と横長の静止画像について説明する図である。
- 【図 4 6】 画像の切り出しについて説明する図である。
- 【図 4 7】 貼付領域のアスペクト比と画像の切り出し領域との関係を示す図である。
- 【図 4 8】 不適切な切り出し領域について説明する図である。
- 【図 4 9】 画像の切り出しに関するアルゴリズムについて説明する図である。
- 【図 5 0】 画像の切り出しに関するアルゴリズムについて説明する図である。
- 【図 5 1】 画像の切り出しに関するアルゴリズムについて説明する図である。
- 【図 5 2】 画像の切り出しに関するアルゴリズムについて説明する図である。
- 【図 5 3】 画像の切り出しに関するアルゴリズムについて説明する図である。
- 【図 5 4】 画像の貼り付け処理について説明するフローチャートである。
- 【図 5 5】 アルバムの表示処理について説明するフローチャートである。
- 【図 5 6】 モニタに表示される画面例を示す図である。
- 【図 5 7】 動画像の関連付けの処理について説明するフローチャートである。
- 【図 5 8】 モニタに表示される画面例を示す図である。
- 【図 5 9】 モニタに表示される画面例を示す図である。
- 【図 6 0】 モニタに表示される画面例を示す図である。
- 【図 6 1】 動画像の削除に関する処理について説明するフローチャートである。
- 【図 6 2】 動画像の削除に関する処理について説明する図である。
- 【図 6 3】 動画像の削除に関する処理について説明するフローチャートである。
- 【図 6 4】 フォルダにおける画像の管理について説明する図である。
- 【図 6 5】 フォルダにおける画像の管理について説明する図である。
- 【図 6 6】 動画像の削除に関する処理について説明するフローチャートである。
- 【図 6 7】 記録媒体について説明する図である。

【手続補正 3 3】

【補正対象書類名】図面

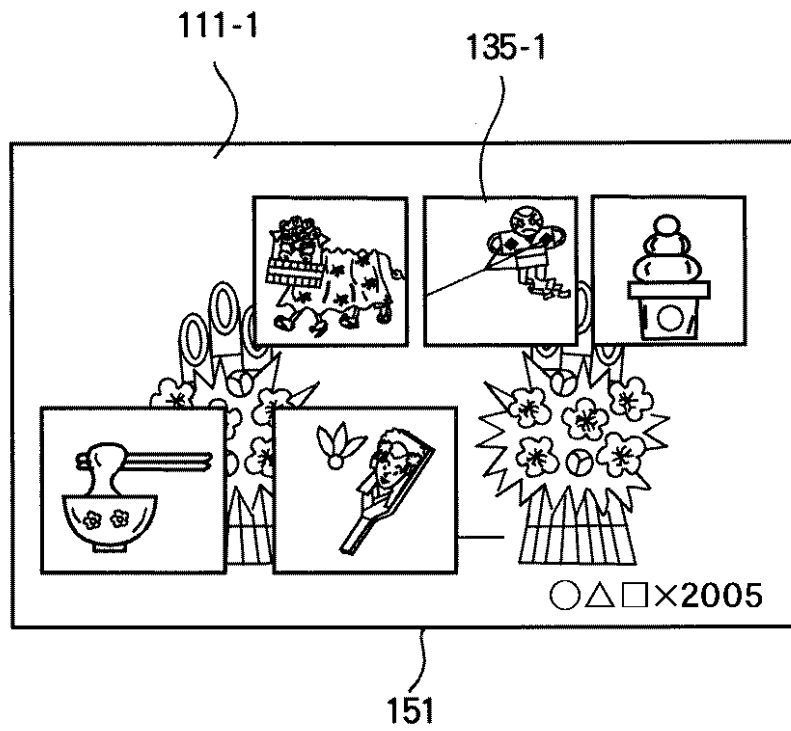
【補正対象項目名】図 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 10】

図 10



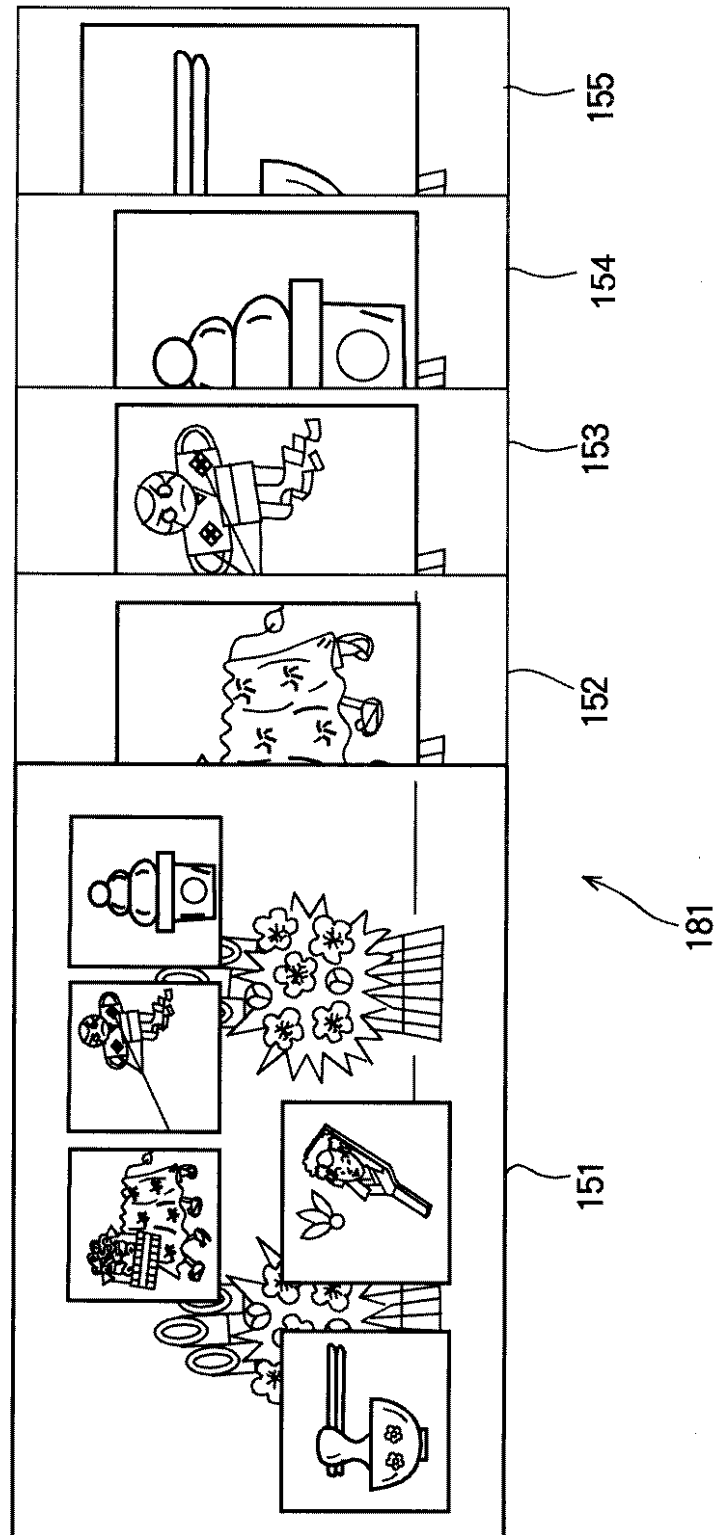
【手続補正 3 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 2

【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【図 1 2】

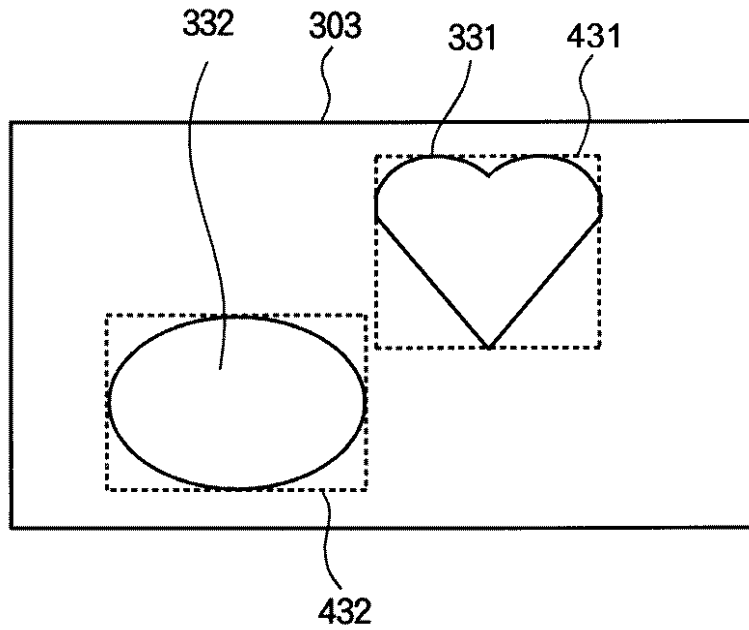
図 12



【手続補正 3 5】

【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図 4 2
【補正方法】変更
【補正の内容】
【図 4 2】

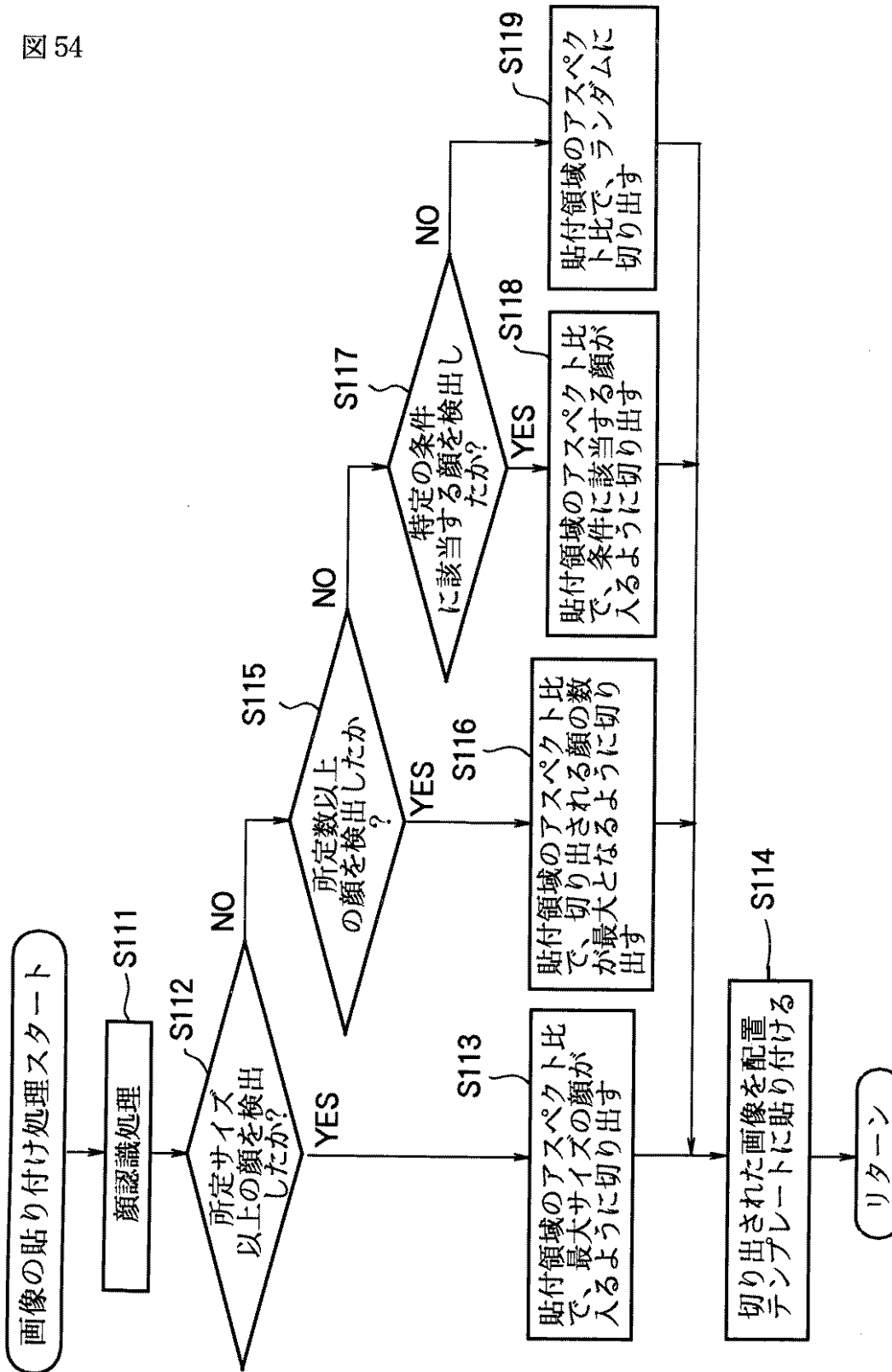
図 42



【手続補正 3 6】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図 5 4
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図 5 4】

図 54



【手続補正 3 7】

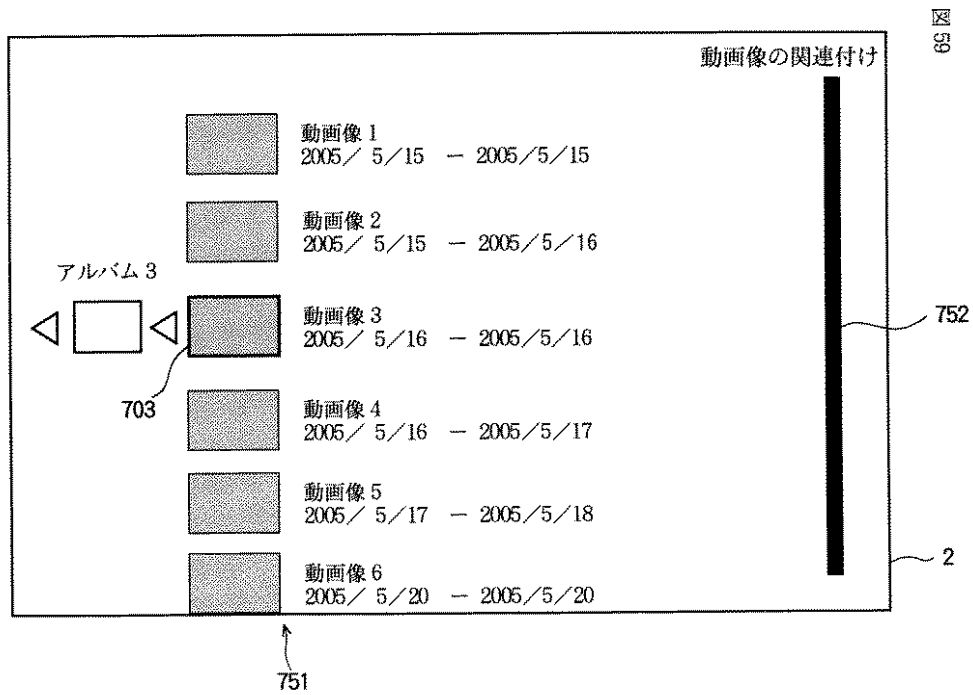
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 5 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 5 9】



【手続補正 3 8】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 6 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 6 0】

